地域の関係機関の皆様

お気軽にご利用ください!

リハビリ総合相談窓口開設!

当院は、リハビリテーション専門病院として、地域の事業所のみなさまからリハビリテーションに関する、さまざまな相談をお受けしております。専門窓口を設置しておりますので、ご心配なこと、お困りのこと、お気づきのことなどがありましたら、お気軽に下記の窓口をご利用ください。

【窓口】 **牧リハビリテーション病院 地域連携室**

【ご相談方法】 ※下記の①～③どの方法でも結構です。

①電話でのご相談 **TEL.072-887-0065**
月～土(日、祝日除く)、9時～ 16時

②FAXでのご相談 **FAX.072-887-0130**
24時間稼働

③メールでのご相談 a.namoto@maki-group.jp 変わりました

相談無料

迅速な対応を心がけておりますが、お時間を要する場合もございますので、ご了承のほど宜しくお願いいたします。

相談例

- □摂食嚥下(えんげ)機能全般について
- □理学療法、作業療法、言語聴覚療法の詳しい内容について知りたい
- □利用者さんが退院後、ADLが上がらない
- □自宅でも簡単にできるリハビリを知りたい
- □在宅でのカンファレンスに参加してほしい
- □リハビリに関する講演会や勉強会をしてほしい
- □栄養指導についてなど

編集後記

新年を迎えると今年一年の無病息災を願った『七草粥』など、食に関する行事が多くあります。2月の節分は『恵方巻』を食べる習慣がありますが、節分に恵方を向いて食べる『太巻き寿司』は大阪が発祥と言われています。1998年にセブンイレブンが『丸かぶり寿司 恵方巻』の名称を採用したことにより急速にこの名称が広まりました。諸説ありますが、その年の恵方を向き無言で一気に食べると、縁が切れず縁起が良いとされています。2018年(平成30年)今年の恵方は『南南東』です。

3階病棟 介護士 田辺 幸世

病院周辺の拡大図

アクセス

[電車の場合]

■地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南駅」下車2番出口上がってすぐ。

[お車の場合]

■近畿自動車道をご利用の方は、北行き「大東鶴見」南行き「門真」出口を降りてください。

■第2京阪道路をご利用の方は、西行き「第2京阪門真」出口を降りてください。

■中央環状線〈堺方面〉からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら「茨田大宮1交差点」を右折し、セブンイレブンの角を左折後直進、1つ目の信号を左折し更に左折してください。

■中央環状線〈守口・大日方面〉からお越しの方は「ラクタブドーム」の看板が見えたら側道へ入り、1つ目の交差点「第2京阪側道へ」を左折後すぐ「三ツ島」より側道へ入り、1つ目の信号を右折(高架をくぐり)更に右折後直進してください。

■1号線(第2京阪側道)〈枚方方面〉からお越しの方は、北島東交差点後、「三ツ島」より側道へ入りそのまま直進してください。

病院敷地内に駐車場がありますが、少数のため空きが無い場合はラクタブドームのコインパーキングをご利用ください。

[お問い合わせ先]

特定医療法人 清翠会 **牧リハビリテーション病院**

〒571-0015 門真市三ツ島3丁目6番34号

URL http://www.maki-group.jp

TEL.072-887-0010

Medical for Happiness
牧ヘルスケアグループ

牧リハビリテーション病院 広報誌

まきりは

VOL.11 平成30年1月

私たちの理念

Medical for Happiness

一人ひとりの幸せな人生を支えるために

牧ヘルスケアグループは、
地域の医療機関、介護事業所などと密接な連携をとり、
予防から急性期、回復期、維持期、在宅の機能を担う
「地域完結型の保健・医療・福祉複合体」として、
みなさまの幸せな暮らしを支え続けます。
私たちは「Medical for Happiness」の実現をめざしています。

contents

P1 新年のごあいさつ 院長 髙家 幹夫

P2 [看護部より] 高次脳機能障害を知ろう

P3 学会レポート 第19回 大阪病院学会に参加して

P4 デイケア門真だより・RUN伴+門真が開催されました

P5 リハビリの現場から ～理学療法士編～

P6 第20回 まきりは連携の会

明けましておめでとうございます。

御蔭様で、牧リハビリテーション病院も開設から干支を一巡し二度目の戊年を迎えることができました。これからも、最新の知見を取り入れつつ、病気や怪我に負けない充実した家庭生活に貢献できるよう、皆さんと一緒に病院一丸となって頑張っていきたいと思っております。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、この干支の巡りを天体の動きで考えると、地球の太陽周回が13周目に入ったところになりますが、この間、途中の2012年には門真で金環日食に遭遇しました。この時は、地球と太陽の間に入る月が太陽側に振れて相対的に小さくなり、太陽の周辺だけが金環に見えたものでした。その時に、太陽が同サイズの月で全て隠れる皆既日食とは全く別物と言われましたが、昨年その皆既日食を体験することができました。天文学では、日食が地球の何時何処で起こるか、日食の程度と通過地域が驚くほど正確に計算されています。昨年8月21日には、何かと話題のトランプ氏がホワイトハウスから部分日食を見上げている姿がニュースに出ていましたが、米国西北端のワシントン州シアトルから少し南に下がったオレゴン州の小さな町マドラスは、皆既日食コース上にあり天候にも恵まれると予想され、7000人程度の人口がこの日は何と25万人に膨れ上がって大騒ぎでした。上の写真は、現地時間am9:06 ～11:41の間に撮影できた皆既日食の一連の変化をまとめたものです。日食に入る前の太陽は、特殊フィルターを通すと陳腐な球体にしか見えませんが、右上から徐々に欠けて行きます。僅か線状に残ったところでフィルターを外しますが、まだ眩し過ぎる状態です。更に進むと、月縁のいくつもの谷間から漏れる光がダイヤモンドのように眩しく煌き太陽周囲のコロナや真っ赤なプロミネンスも見られるダイヤモンドリングといわれる光景が現れ、驚きの声が響き合う世界に入ります。月が完全に重なると、地上は夕闇に覆われ、太陽は周りのコロナのリングだけの光景に変わります。続いて、反対側に溜息の出るようなダイヤモンドが現れ、後は、周りが明るく暖かくなり、太陽がどんどん元の姿を取り戻して朝の景色になりますが、2つのダイヤモンドリングの間の時間は約2分でした。ダイヤモンドが見え出したら瞬く間に周りは明るくなり、暖かい光線が感じられ、太陽の凄まじいパワーを実感しました。この源の無数の核爆発は、同時に強烈な放射線を発していますが、地球の大気がシールドとなって我々を守ってくれています。それなのに、その大気の下で核問題など嘆かわしいものです。ICANにノーベル平和賞が贈られただけで喜んでいてはいけません。

因みに、このような天文学の計算は過去に遡っても行われ伝承と対比されており、天照大神の天の岩戸、卑弥呼の伝承についても、卑弥呼が没したとされる248年に日本で日食が見られたと計算され、東北南部～中部北部は皆既日食、奈良近辺は左ダイヤモンドよりやや大きい程度の部分日食で、九州は圏外、長野の戸隠は皆既日食だったようです。

院長　髙家 幹夫

看護部より

高次脳機能障害を知ろう

高次脳機能障害教室を開催しました

≪高次脳機能障害とは≫
けが（脳外傷）や病気（脳血管障害）などによって、脳に損傷を受けることで生じます。損傷を受けると、言語、思考、記憶、行為、学習、注意力などに障害が起きた状態になります。

牧リハビリテーション病院には、高次脳機能障害を持ち入院される患者様も多くおられます。不安を抱いたままの退院とならないよう、退院支援の一環として、患者様、ご家族様対象に、在宅生活で活用できるパンフレットを作成し、高次脳機能障害教室を開催しました。

初めての教室開催でしたが、患者様、ご家族様、多数の参加者があり、熱心に聞いておられました。看護部では今後も患者様に寄り添い、退院支援の取り組みを行っていきたいと思います。

記憶障害　注意障害　失行　失認　半側空間無視

学会レポート

第19回 大阪病院学会に参加して

REPORT

リハビリテーション部 理学療法士
大野 博幹(おおのひろき)

リハビリでの目標の共有方法、退院支援のタイミングについて考察。

11月12日(日)『在宅復帰を良い時期に進めるためには～FIM、やる気スコアからの分析～』というテーマのもと第19回大阪病院学会が開催され演題発表をしました。

内容は、在宅復帰の時期が患者様のリハビリ意欲と身体機能面にどの様な影響を及ぼすかという点に着目し、やる気スコアと日常生活動作スケール(FIM)の客観的データの分析から、リハビリでの目標の共有方法、退院支援のタイミングについて考察しました。多職種連携・地域連携の重要性を認識しチーム内で情報共有し、良い時期の在宅復帰を実現させ、その後の生活の質(QOL)の向上に繋がるよう日々患者様と接していこうと思います。

演題
『在宅復帰を良い時期に進めるためには
～FIM、やる気スコアからの分析～』

iPS細胞技術を医療の場に届けるために達成すべき目標。

また、特別講演では、京都大学iPS細胞研究所所長の山中伸弥教授から『iPS細胞がひらく新しい医学』を拝聴しました。iPS細胞技術を医療の場に届けるために達成すべき4つの目標(再生医療の普及、難病の創薬、生命科学と医療の開拓、研究環境の整備)の説明やiPS細胞の誕生秘話など、革新的医療を患者の方々に届けるべく日々研究に取り組んでいらっしゃる様子をご紹介頂きました。

これからは、今まで治らない疾患が治る時代と医療技術が大きく進歩する時代の幕開けです。再生医療とリハビリテーションのコラボレーションも研究されており、新しく進歩する医療の流れに後れを取らないよう研鑽し、リハビリテーション技術に活かしていきたいと考えます。

デイケア門真だより

まきりは敬老会
～銭太鼓・三味線の音に合わせて歌おう♪～

介護福祉士
鎌田 麻里(かまたまり)

デイケア門真では、9/23(土)敬老の日のイベントを行いました。山吹会、乙守会の皆さんをお招きし、銭太鼓と三味線の演奏、歌と踊りを披露していただきました。演目のほとんどの曲を多くの利用者様が口ずさんでおられ、馴染みのないスタッフも驚かされました。途中で合いの手を入れてくださる方がおられたり、珍しい銭太鼓のリズムや美しい三味線の音色に合わせた歌声に「鳥肌が立った～」「楽しかった!」との感想も聞かれ、とても喜んでいただくことができました。

普段リハビリを頑張っておられる利用者様に、このようなイベントで、少しでも気分転換になり楽しんでいただけたら幸いです。

【銭太鼓】
出雲地方で生まれた民族楽器の一つで、その名前が示すように、筒の中にお金(5円玉)を入れて音を出す仕組みになっており、振ると音が鳴ることから、子どもからご高齢の方まで楽しめる楽器といわれています。

みんなでつなごう! 門真の輪!
認知症になってもひとり歩きができるまちへ

RUN TOMO-PLUS in KADOMA

RUN伴(とも)+(プラス)門真 が開催されました。

訪問リハビリテーション門真
理学療法士
紙谷 拓樹
(かみたに ひろき)

11月12日に「RUN伴+門真」が開催されました。

「RUN伴」とは、認知症の方や高齢者、家族、支援者、市民が共に歩き、伴に走りながらゴールを目指すイベントです。昨年に引き続き、牧リハビリテーション病院は南コースの中継地点を担いました。

第2回目の開催となる今回は、「門真市スポーツレクリエーション大会」のプログラムの一部として行われました。当日は、ケーブルテレビやFM-HANAKOの取材等もあり、このイベントに対する関心や期待が徐々に拡がりつつあることを実感しました。中継地点として参加していただく事業所も増えています。また、イオン古川橋駅前店では音楽を通じて応援する「RUN伴コンサート」も行われ、大盛況となりました。

今回、私はコースリーダーとしてランナーの皆さんと一緒に門真を歩かせていただきました。時間にして2時間と少しでしたが、ランナーの方々の笑顔やゴールを目指す熱い気持ちを非常に多く聞くことができ、ゴールの際の充実感はとても大きなものとなりました。

今後も「認知症になってもひとり歩きできるまち」を目指し、みんなでつなぐ門真の輪を拡げられるように応援・協力していきたいと思います!!

リハビリの現場から

～理学療法士編～

牧リハビリテーション病院でリハビリに励む患者様と患者様を全力でサポートする職員の物語。

リハビリテーション部
理学療法士
松下 菜月
（まつした なつき）

私が理学療法士になろうと思ったきっかけは…

今回、私が理学療法士を目指そうと思ったきっかけを紹介いたします。それは、中学生の頃に部活動でケガをしてしまいリハビリを受けたことです。思ったように動けない不自由さから気持ちが落ち込んでしまいましたが、担当の理学療法士の方はいつも明るく笑顔で、楽しくリハビリができるよう工夫をしてくださいました。ケガの状態だけをみるのではなく、不安に感じている気持ちを汲み取ってくれたり、良いことがあった日はすぐに気づいてくれたりと、真摯に向き合ってくれたため、自然とリハビリに対する意欲が向上しました。そしてこの頃から、「私も人に笑顔や自信を与えられるような仕事がしたい」と、強く思うようになりました。

患者様は身体的にはもちろん、心の傷や不安を抱えながらリハビリに取り組まれています。私が以前担当した患者様も、リハビリ中に突然泣き出してしまったり、病気の影響もあり感情をコントロールすることが難しい方がいました。そんなときは気持ちを和らげるため患者様に寄り添い、お話を聞きながら向き合いました。そして理学療法士として、できていること・できていないことを分析し、目標を立てて説明することで、患者様はリハビリに対する意欲が向上し、再び笑顔を見せてくれるようになりました。私はこれからもあの頃の経験を忘れず、患者様の笑顔と自信を取り戻すため信頼関係を築き、日常生活に復帰するためできるだけお役に立てるよう努力し、支援させて頂きたいと思います。

「私も人に笑顔や自信を与えられるような仕事がしたい」と、強く思うようになりました。

第20回 まきりは連携の会

「連根の会」から「まきりは連携の会」に名称がかわりました。

デイケア門真
責任者
山下修平
（やました しゅうへい）

今回のテーマ

「生活期の骨粗鬆症について ～それぞれの立場から～」

［講師］
牧リハビリテーション病院
根岸 宏一　日本整形外科学会専門医、日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科専門医
大野 博幹　理学療法士／骨粗鬆症マネージャー
小森 美保　管理栄養士
帝人ファーマ株式会社
田邉 由望氏

12月9日（土）牧リハビリテーション病院にて、「まきりは連携の会」が開催されました。
整形外科医師・管理栄養士・理学療法士それぞれの観点から、骨粗鬆症についての講義がありました。骨粗鬆症は、骨の密度が減ってもろくなり骨折しやすい状態になることを指しますが、特に気になった事は、日本人の推定患者数が1280万人と非常に多いのに比べ、受診率が5.5%と低いことでした。ご高齢者が骨折をすると、寝たきりになってしまう可能性も考えられ、そこに至らなくても要介護状態になりやすいと危惧されます。そのような情報を知ると、自分の両親はどうかな?知っているかな?などとも思い、改めて地域に向けて情報発信していく事の重要性を感じました。

また、骨粗鬆症の進行を予防・改善するためにも、栄養や運動の観点から取り組む事が重要です。カルシウム摂取だけでなく、効率よく取り込むためにビタミンDやビタミンKなどの摂取も推奨されました。食事にひと手間加えるだけで摂取できるのであれば、忙しい方でも取り組みやすいのではないかと思いました。

そして、運動機能低下も骨粗鬆症に影響を及ぼすというお話の中で、椅子から片足で立ち上がれるか、などの簡単な運動機能検査を参加者全員で行いました。予想外に難しく、もしかしたら運動機能低下の予備軍?と思われる方もおられました。

私自身も理学療法士の一人として、これらの情報を積極的に発信し、地域の皆様が健やかに過ごせるよう、意識して取り組んでいきたいと思います。